令和５年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立太田小学校 ）　　学校番号　０８８

目指す学校像	分かる授業を追求する「楽しい学校」　自他を大切にし、感動する心を磨く「優しい学校」　進んで運動し、心も鍛える「元気な学校」　児童・保護者・地域の思いを大切にする「愛される学校」
重点目標	１　ＳＴＥＡＭＳ教育を視点にした授業改善と「本物」に学ぶ体験的な活動を位置付けた学習の展開 ２　伝統である「４つの宝」を磨く取組の推進と教育的ニーズに応じた指導・支援体制の充実 ３　岩槻小・岩槻中と連携・協力を図るコミュニティ・スクールの推進 ４　教職員の健康と命を守るための働き方改革と教職員の資質能力の向上を目指した研修の推進

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令６年３月５日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	〈現状〉 ○本校は、全国学力・学習状況調査において、国語・算数ともにさいたま市・全国平均と比べて、１０ｐｔ程度低い項目がある。 ○令和３年度から３年間、市教育委員会から「さいたま STEAMS 教育」の研究委嘱を受け、教科横断的な視点で授業改善を進めてきた。児童が ICT を活用し、友達の考え方を自分の考えに生かすなど協働的に学ぶ様子が見られるようになってきた。 ○児童は、学習を進める際、タブレット大変役立つことを実感しており、課題解決に向けて進んで活用している。 〈課題〉 ○「さいたま STEAMS 教育」に示されている様、例えば「実社会につながる問題発見・解決能力」等の力を育成するために、教科横断的な視点での授業改善が必要である。 ○各教科等で、児童に付けたい力を明確にした上で、指導方法の工夫改善が必要である。	・「さいたまＳＴＥＡＭＳ教育」を視点にした授業改善	①「さいたまＳＴＥＡＭＳ教育」を意識した公開授業を計画的に実施し、管理職及び参観者による協議会を実施する。 ②各学年のエバンジェリストによるタブレット端末を活用した実践・提案等を共有し、全教員が同様に実践し、学級での活用の差を無くす。 ③学校課題研究の主教科である算数・図工において、児童の学習記録をスタディ・ログとし児童の分析・活用し、児童への支援や授業改善につなげる。	・教職員の授業改善における評価アンケートを実施し、肯定的評価の割合を９割以上とする。 ・８割以上の学級で、週３回以上タブレットを用いての授業実践を行うようにする。 ・進んで問題を発見し、身に付けた手段を講じて意欲的に解決する児童及び学級の様子が見られる。	・学校評価における教員の授業改善の項目について、肯定的な回答の割合は９割程度であった。 ・タブレット端末の活用については、児童アンケートの結果として、週３回以上タブレットを活用している学級の割合は 85%であった。また、全教員が日常的にタブレット端末を活用していると回答した。 ・タブレットを活用することで、児童が協働的な学びの価値を実感し、主体的に課題解決に取り組む様子が多く見られた。	A	・今年度までの学校課題研究の成果を生かし、常に授業改善を推進する意識を一層高める。 ・タブレット端末の日常的で積極的な活用については今後も継続し、より効果的な活用場面について研究を深める。 ・児童に身に付けたい力を明確にし、児童が主体的に学べる授業づくりを推進し、児童の変容を見取っていく。	・学力向上の取組については、学校として、数値や子どもの変容を掲げた上で進め標やこどもの目標ができるようにする。 ・単年度で達成できる短期的な目標や複数年でな達成したい長期的な目標地域と設定して、保護者・地域共に取り組んでいけるとよい。 ・教育活動において、タブレットをどのように効果的に活用するのかますます工夫が求められる。指導する教員のスキルの向上や活用の仕方の研究に努めてほしい。
		・学習活動を行う上で、タブレットの効果的な活用の工夫	①業前の時間に学力向上タイムを設定し、スタディ・サプリ等の学習アプリを活用し、自分の課題に応じた学習をさせる。 ②全教員に対して、管理職による授業参観を定期的に行い、個別最適な学びの実現に向けて指導・助言を行う。	・市学習状況調査の結果において、令和５年度の市平均との差を５ポイント以内にする。 ・児童一人ひとりがそれぞれの課題を把握し、学習用端末等を用いて解決する姿が見られる。	・市学習状況調査の結果の速報値において、平均については現在分析していくる。学校課題研究における児童アンケートでは、「豊かに表現できる」という質問での肯定的な回答が８割程度で、昨年度よりも３%増加した。 ・日常的に学習アプリを活用し、自分の課題に応じた学習を進める児童が増えた。	B	・タブレットを用いることで、自分の課題解決に役に立ったり、効果的に学習の予集・復習に役立ったりすることを児童に実感させることが重要である ・目的を明確にした上でタブレットを活用させるための指導方法について研究を進める。	
2	〈現状〉 ○本校伝統の「あいさつ上手」については、地域や保護者の方々からお褒めの言葉をいただくほど気持ちのよいあいさつができる児童が多い。 ○児童一人ひとりに応じたきめの細かい教育については、教育相談主任、スクールソーシャルワーカー、特別支援教育コーディネーター等を中心に丁寧に粘り強く対応している。 ○学校施設・設備の安全の確保については、安全主任を中心に教職員で毎月点検を行い、組織的に対応している。 （課題） ○児童の一層の安全・防災意識の向上が必要である。	・児童一人一人に「応じた指導体制の充実	①いじめ問題等に対して、定期的な生徒指導部会・教育相談部会、特別支援教育部会、ま関係職員応じと情報を共有し、適切に対応する。 ②日常の児童観察、SSW・SC の面談、心と生活のアンケート等で得たし情報を個別の指導計画等に記録し、支援・指導方法の工夫改善に役立てる。	・学校評価に係る保護者アンケートにおいて、「いじめのない学校づくり」に係る項目で、肯定的な回答の割合が９割程度とする。 ・学校評価における教職員アンケートにおいて、「心と生活のアンケートの結果を基に児童への対応ができたか」の項目で、肯定的な回答が９割以上とする。	・学校評価に係る保護者アンケートにおいて、「いじめのない学校づくり」に係る項目で、肯定的な回答の割合については、８割程度であった。 ・学校評価における教職員アンケートにおいて、「心と生活のアンケートの結果を基に児童への対応ができたか」の項目で、肯定的な回答については、９割以上であった。	B	・太田小学校いじめ防止基本方針に基づき、児童・保護者の立場に基づった上で、継続的な指導・見守り指示徹底する。 ・発達指示的生徒指導の充実を図り、ユニバーサルデザインを踏まえ授業、学級経営を実践する。管理職を中心に実施する徹底する会。ケース会議等を迅速且つ組織的な対応をする。	・今後も、学校ではいじめ防止基本方針に基づき、継続的な指導・見守りをお願いしたい。 ・学校は、いじめ基本方針に基づいて、いじめの早期発見、継続した見守りを行っていることを、保護者・地域もしっかり理解して、協力体制が取れるとよい。 ・施設の安全管理については、児童の安全確保が第一なので危険個所を把握した場合には長期にそのままにせず、計画的に修繕・改修をお願いしたい。
		・学校施設の管理及び安全主に取り組む児童の育成	①職員による毎月の安全点検及び管理職による点検を確実に実施し、不備があれば計画的に修繕する。 ②けがマップを活用し、学校でのけがの状況を児童に客観的に把握させ、保健委員会の集会等で児童に対策を考えさせる。 ③児童委員会等による安全な生活の実現に向けた目標を自ら設定させ、集会等で発表させる。	・学校の施設不備に係る児童事故を起こさない。 ・学校評価における「安全に気を付ける態度が育っているか」の項目で、児童の肯定的評価の割合を９割以上とする。	・施設設備の修繕については、毎月の安全点検をもとに計画的に実施することができた。施設不備による児童の事故事案は発生しなかった。 ・けがマップを活用し、全校児童に対してけがの予防や注意喚起を行うことができた。 ・学校評価における安全指導に係る項目についての児童の肯定的な回答は８割程度であった。職員、保護者における肯定的な回答はともに９割程度であった。	A	・学校施設の管理については、毎月の安全点検を確実に実施し、不備が発見された際は、速やかに改修・修繕を行う。 ・防災教育、安全教育を充実させ、児童の安全意識の向上を図る。 ・児童会の児童等に主体的に安全や生活の目標等を考えさせ、他の安全を守る意欲を向上させる。	
3	〈現状〉 ○岩槻小・岩槻中と本校の３校合同で、学校運営協議会を組織し、３校で中学校卒業時に身に付けさせたい力の具現化について熟議することで、同じ目標に向かってコミュニティ・スクールを推進している。 ○コロナ禍を過ぎ、児童が徐々に地域行事に参加できるようになってきた。 （課題） ○学校運営協議会やスクールサポートネットワークにおける連携体制づくりや連携の強化について、熟議が必要である。	・地域や保護者と連携・協働を図った教育活動の推進	①学校運営協議会で熟議された内容について、太田小としての課題を明確にし、具体策・手立てを研究し計画的に実施する。 ②挨拶運動、キャンペーン等を児童会に企画運営させ、児童の挨拶が校内だけではなく地域にも広がるようにする。	・学校評価における「地域に開かれた学校づくりに努めているか」の項目で、保護者の肯定的評価の割合を９割以上とする。 ・児童会の児童に主体的に挨拶運動の活性化について、議論させ解決の方策を考えさせる。	・学校評価における地域に開かれた学校づくりに係る項目について、保護者の肯定的な回答は９割程度であった。 ・挨拶運動については、児童会を中心に「オアシスキャンペーン」を行い地域の方にも参加してもらうなどして、より活性化することができた。	B	・コミュニティ・スクールの熟議で上がった学力向上についての課題や方策等については、教育課程部会で検討し、学力向上タイムや家庭学習の改善等を中心に実践していく。	・コミュニティ・スクールの意義や効果、必要性等について、学校（職員・児童）・家庭・地域で理解を深めていくことが重要である。 ・学校の教育活動を支援できるような地域の人材は豊富にいる。どのような人材をどのように活用すればいいのか、教育活動に効果的に運用するにはどうすればいいのか、熟議を重ねていく必要がある。 ・地域活性化のために若い人材が活躍していることも多い。そのような力も活用できるとよい。
		・地域を愛する児童の育成	①６学年児童に郷土の行事の意義や目的を明確にし、岩槻まつり・岩槻ふれあいフェスタに鼓笛隊として参加させ、達成感や充実感を味わわせる。また、全校に６学年の活動の様子を見せ、高学年に進級する意欲を高める。 ②地域行事の案内について、積極的に児童に周知し参加を促す。	・学校評価における地域の活動に参加できたかの項目において、児童の肯定的評価の割合を８割以上とする。	・児童による地域行事の積極的な参加の質問における肯定的な回答は８割程度であった。	A	・町探検や地域講師の招聘など太田小の地域の教育力を積極的に教育活動に取り入れる。 ・鼓笛隊のような太田小学校の良き伝統的な取組を引き継いでいくとともに、児童の地域行事の積極的な参加を促していく。	
4	〈現状〉 ○学校課題研究を推進する中で、タブレットをはじめとしたＩＣＴの活用方法について、エバンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。 ○中・高学年での教科担任制実施により、担当する教科について、より深い教材研究を行うことができている。 〈課題〉 ○自身のキャリア段階に応じて、資質能力の向上に係る研修会等に積極的に参加させていきたい。	・業務改善と校内研修の充実により、教職員の資質・能力を向上させる。	①学校課題研修の内容を充実させ、学習用端末の授業で活用方法を研究する。 ②人事評価を活用し、教職員一人ひとりがキャリアアップできるよう研修の受講を奨励する。組織目標と連鎖した具体的な個人目標を設定させる。 ③teams 等を活用し、欠席連絡、校内連絡、会議資料等を随時閲覧し、会議等効率化できるようにする。	・教員が授業改善等におけるＯＪＴを推進している姿を増やす。 ・自信をもって教科指導・校務分掌等の職務を遂行し、積極的に学校運営に参加する教職員の姿が見られる。 ・学校評価における教職員の業務改善における肯定的な回答を８割以上にする。	・研修会や授業研究会の受講・参加を推奨したことで、自身のキャリアアップにつなげる教員が増えてきた。 ・teams において随時、会議資料や部会の報告、連絡事項等を閲覧できるようにしたことで、必要な打合せ、会議を必要な時間で終えることができた。 ・学校評価における業務改善に係る肯定的な回答は８割程度であった。	B	・ＯＪＴの一層の推進を図り、教育に係る自分の強みを指導に生かせるような質の高い教員集団を作っていく。 ・教員を続けていく上で、持続可能な働き方について研究し、業務の工夫改善を図っていく。	・時代が変わり、ICT の活用や授業改善、保護者対応など、教員の業務負担が増加していることはよく理解できる。 ・保護者としては、教員が休職となり、担任が交代・不在となってしまうことを懸念している。先生方には、心身ともに健康で勤務していただきたい。 ・長期に健康的に働けるよう、管理職のよる学校マネジメントを期待したい。